

平成29年度第1回豊明市環境審議会 議事録

1. 日時等 平成30年1月12日午後2時より、市役所3階会議室2

2. 出席者 委員 10名出席、4名欠席
市長 (諮問書の交付時のみ臨席)
事務局 経済建設部長はじめ6名

3. 先行行事 ① 委員の任免等
辞任1名、役職交代による新任1名(辞令交付)。
② 会長選任
島田 隆道委員を互選により会長に選任。
③ 副会長指名
近藤よし江委員を会長より指名。
④ その他
傍聴希望者なし。

4. 議事

議長 開会宣言。(14時30分)

充足数の委員の出席を報告。

議題1「環境基本計画および環境審議会について」上程。

事務局 法令、制度、経緯などを説明。

議長 意見質問なし。

議題2「環境の概況について」上程。

事務局 資料②により説明。

【資料②「平成29年度(平成28年度分)豊明市の環境概況」別添】

議長 意見質問なし。

議題3「ごみ減量推進施策について」上程。

市長 諮問書を会長に手渡し、あいさつおよび概要を説明。

【資料④「諮問書」別添】

<市長説明の要旨>

まずもって、ごみの有料化ありきではない。

東部知多衛生組合のごみ処理施設の更新に大きな負担が出るなど
本市は、ごみ減量を推し進める必要に迫られている。

様々な方向から議論をし、将来施策への意見をいただきたい。

事務局 資料③により説明。

【資料③「ごみ減量化に向けて今後の取組むべき施策について」別添】

- 委員 表1に示すごみの量には、資源が含まれており、ごみ減量計画の目標値として適さないのではないかと。
- 事務局 なぜそうしたのか計画時のことは不明。3頁上段グラフのとおり、あくまでも、家庭系可燃ごみを減量することが課題と考えている。
- 委員 堆肥センターの廃止は、大きく響いている。ごみの有料化の他に、別の堆肥化策や生ごみの乾燥などの方法もある。
- 委員 有料化した自治体の例を見ると、小額の有料化だと効果が長続きしない例が多い。費用を捻出することではなく、ごみの減量という観点から考えなければならない。
- 委員 財政状況も心配だが、喫緊の大問題として具体的な施策や方法を論議し実施に向かわなければならない。
- 委員 ごみになるものを買わないのと同時に、食材の廃棄を減らす取組が必要。生活学校では、フードドライブを実施し、ごみの減量化に寄与する事業を実施している。
- 事務局 この問題は、官民あげた取組みを求められている。本市も平成29年度から「食品ロス」の削減に力を入れており、広報に特集を組み、イベントを行い啓発活動に努めている。
- 委員 ごみ有料化の意見を言うのか、ごみ減量を論ずるのか。
- 事務局 市長も申上げたとおり、有料化は一つの方法論でしかありません。市民の衛生的な生活のために大切な、ごみ処理の問題について、市民が排出し、行政が処理するごみの量を、いかに減らしてゆくののかという命題に、行政が講ずるべき手段、方法、考え方などについて、委員個々の意見から伺い、まとめてゆきたい。
- 議長 それでは、各委員の意見等を事務局あてに提出して次回の審議とすることとし、議題3を終了する。
- その他の議題なし。
- その他の事項2件を承認する。
- ① 議事録は、概略版として会長に一任し、後日、市ホームページにて資料とともに公開する。
- ② 次回は、平成30年3月19日（月）で調整する。
- 自由発言等なし。
- 閉会を宣言。（15時45分）

以上